

ちばの地域福祉

「市町村の包括的支援体制の構築に向けて」

千葉県 健康福祉部 健康福祉指導課長 瀧口 弘

中核地域生活支援センター事業を所管しております千葉県健康福祉指導課長の瀧口と申します。皆様におかれましては、日頃から中核地域生活支援センター事業に御理解、御協力を頂き、誠にありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、中核地域生活支援センターは、平成16年10月に開設され、今年の10月で14年目を迎えました。

この間、地域には、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、生活困窮者のための相談窓口など、様々な相談支援窓口の開設が進んでおり、中核地域生活支援センターに寄せられる相談も、複数の分野にまたがる複雑な事案や制度の狭間に係る案件が増えるなど、センターを巡る状況が開設当初とは大きく変化してきています。

このような状況を踏まえて、県では、県事業としてのセンターの役割や事業内容を明確化するため、平成22年2月に「千葉県中核地域生活支援センターあり方研究会報告書」で示された「広域的・高度専門的な支援」及び「市町村へのバックアップ」という方向性も踏まえ、平成29年度から、制度の狭間にある方や複合的な課題を抱えた方を主な支援対象者とするほか、事業内容に「市町村等に対するバックアップ事業」を明記するなどの要綱改正を行いました。

現在、厚生労働省では、地域共生社会の実現に向けて、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制を構築するとともに、市町村において、包括的・総合的な相談支援体制を構築するよう求めています。

県としては、国の動向を踏まえ、市町村において包括的・総合的な相談支援体制が整備されるように、国の「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」の活用や中核地域生活支援センターのノウハウの提供などを通じて、市町村に対して支援してまいりたいと考えています。

また中核地域生活支援センターについては、市町村のバックアップ機関として、引き続き、市町村や関係機関の皆様と連携を図りながら、その役割をしっかりと果たし、事業を展開していきたいと考えておりますので、皆様の御協力をいただきますようお願いいたします。

『ほっとねっと』の地域づくり（松戸圏域）

医療的ケア児や小児特定疾病児を対象にしたイベント こどもフェスタ in とうかつ～五感で育つこどもたち～ を開催しました

日常的に人工呼吸器の装着や喀痰吸引（医療的ケア）が必要な子どもや、難病にかかっている子どもは、医療の発展によって急増しています。新しい命が助かるようになったことは喜ばしいことですが、その命を育てていく支援体制は追いついていません。24時間医療と離れることのできない在宅生活は、体力的にも精神的にも負担は大きく、家族に重くのしかかっている現状があります。また、社会的に認知は低く、日常的に医療的ケアが必要な子どもや難病にかかっている子どもの数も少ないため、医療、福祉、介護、育児の工夫といった生活に必要な情報を取得するハードルも高く、他家族との出会いも少ないという課題もあります。

このような課題を解決する第一歩として、ほっとねっとのスタッフが事務局長となり「こどもフェスタ in とうかつ ～五感で育つこどもたち～」をというイベントを開催しました。実行委員には、小児科医、行政職員、NPO、当事者家族が加わり、その体制には地域全体で子どもたちを育てていこうという思いが込められています。企画の内容は「五感」をテーマに、タッチセラピーや、栄養士による胃ろうのレシピ講習会などを用意しました。また家族や、支援関係者の出会いの場になることも目指し、相談支援専門員と行政職員による相談ブース、家族の座談会、自助グループのパネル展示も行いました。

医療的ケアが必要な子ども、難病にかかっている子どもが自宅で日常生活を送るためには24時間医療と福祉の連携が必要となります。また学齢期であれば、教育との連携も欠かせません。他職種、他分野の連携が必要だという点において、また支援体制が不十分な分野であるという点においても、まさに中核地域生活支援センターがもつスキル、ノウハウが生かされるのではないのでしょうか。

2016年6月に改正された児童福祉法によって、自治体に医療的ケア児支援への努力義務が課せられ、国民はいま時代の節目を迎えています。このような時代に、「こどもフェスタ in とうかつ～五感で育つこどもたち～」を開催できたこと大変嬉しく思います。今後はイベントの開催だけではなく更なる発展を遂げて、取り組んでいければと思っております。

■ イベントの詳細

こどもフェスタ in とうかつ～五感で育つこどもたち～

平成29年10月29日（日）松戸特別支援学校にて開催

URL : <https://kodomofestatokatsu.wixsite.com/mysite>



ホームページのQRコード



フェイスブックのQRコード

『のだネット』の地域づくり（野田圏域）

日曜に集う場「ゆったりカフェ」

地域総合コーディネーター 五十嵐 孝子

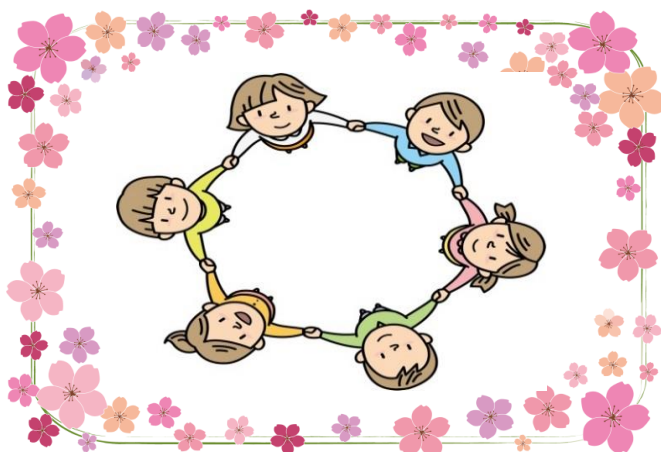
精神病院から市内に一人暮らしを始めた方から「日曜はやることがなくてさみしい」という相談がありました。その頃知り合った精神科の看護師さんの協力も得て「精神障がい者の方々の集いの場」を始めてみることにしました。毎月第1日曜日のお昼ご飯を皆で作りと、食べることにしました。「ひとりごはんが楽しくなる会」と名付け、簡単に作れる食事をここで覚えて自宅でも一人のご飯を楽しめる物にしてもらいたいという思いがありましたが「家で作ろうと思わない」「片付けが面倒」となかなかの不評。参加者も少なく、1年で会の継続を諦めようと考えましたが、周りの皆さんから「続けて行くことに意義がある」と背中を押していただき、内容を見直して再スタートを切ることにしました。食事作りにこだわらず、障がいの種別も問わずふらっと遊びに来られるような場所にしました。名前も「ゆったりカフェ」に改名しました。

広く一般の方々にも障がいの理解を深めてもらうきっかけにしてもらいたいとの思いで、ボランティアセンターに依頼してボランティアにきてもらうことも始めました。学生さんに若い力をもらったり、時には絵手紙の道具一式を持参してコツを教えて下さる方もいたり、活動に広がりが出てきたように感じます。

基本的には市内の公民館で集まって、茶話会・ゲーム大会・調理実習などを行っていましたが、最近では花見・工場見学・お祭りへの参加など、一人ではやりづらい事へもみんなで挑戦しています。

集まってくる方々は、日中それぞれ違う事業所で活動しています。ゆったりカフェで様々な情報交換が行われています。例えばステップアップしたいと思っている所に現在実際に通っている方に話がきけることは貴重な機会となっています。また、自宅に引きこもっている方々にも利用していただくために広報の仕方について考えていきます。

現在は4年半となりますが、参加人数も平均8名位で、中には皆勤賞をあげたくなるような方もいて、続けてきて良かったなと感じています。直ぐに実現することは難しいですが、ゆくゆくは当事者中心の集まりに発展できればと考えています。



私は、児童自立支援施設「生実学校」に設置されている分教室で教員をしています。児童自立支援施設は、非行など行動に問題がある児童や、生活指導を要する児童に対応する施設です。最近では、非行ケースだけではなく、他の施設では対応が難しいケースの受け皿としての役割も果たしています。生実学校は、実は私が中学生のときに過ごした施設でもあります。

私は、ゴミだらけの家で親からの虐待を受けて育ちました。中学生になると里親家庭での生活が始まりましたが、わずか4か月で里親不調。その後、児童自立支援施設、児童養護施設で生活しました。高卒後は大学、大学院へと進み、中学校教員になりました。社会的に安定すると、自らの経験をお話させていただく機会が増えました。

ある講演会で、参加者の方から、「自分が育った場所で働くのは素晴らしいこと。さそ子どもたちの気持ちがわかるでしょう」とお声掛けいただいたことがありました。しかし私は、自分の経験が関わっている子どもたちの支援に役立つとは思えませんでした。私が生活していた十数年前とは、子どもたちの背景も様相が変化しているからです。それに、ケース内容はそれぞれで、安易に一般化できるものではありません。

一方で、「子どもの貧困」「児童虐待」が社会問題化し、当事者の声に耳を傾け、「自分も何かしよう」と行動する人も増えました。こうした方々が関心を向けて下さるのを歓迎すると同時に、「虐待を受けた子は…」 「施設の子は…」 と安易に一般化することなく、出会った子ども一人ひとりに丁寧に向き合って頂きたいと願っています。こうした思いから、2017年1月に施設や里親の下で育った方を対象としたインタビューサイト「そだちとすだち」を開設しました。10月現在、11名の方のインタビュー記事を公開しています。ぜひ、一度、ご覧ください。

今後は、社会的養護に関する研究、当事者の社会参画の推進、福祉人材の育成へと活動を展開させていきます。どこかでお会い出来ることを楽しみにしています！

川瀬 信一

■施設、里親の下で育った方のインタビューサイト「そだちとすだち」

<http://sodachitosudachi.com>

お知らせ



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

第9回千葉県障害者グループホーム大会

住み慣れたこの街で、暮らすこと

平成29年12月9日(土) 10:00~15:30

千葉県教育会館

参加費無料 定員450名(先着順)

〔基調講演〕

地域包括ケアにおけるグループホームとその周辺サービスについて

講師 厚生労働省 片桐 公彦氏

問合せ 千葉県健康福祉部(鈴木・田谷)

043-223-2308

問われる共生社会

～津久井山やまゆり園の再生を巡る
議論から見えてきたこと～

平成29年11月11日(土) 12:30~16:30

船橋保健福祉センター2階 大会議室

参加費 500円(資料代) 定員100名

講師 神奈川県立保健福祉大学準教授
在原 里恵氏

問合せ ふらっと船橋(担当 清水・正木)

047-495-6777

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：君津ふくしネット(君津圏域) 富津市青木2-16-14

TEL 0439-27-1482 FAX 0439-88-1481

アーバンスモール秋山101

編集：さんぶエリアネット(山武圏域) 山武市富田ト748

TEL 0475-53-5208 FAX 0475-80-2808